

令和5年度健康づくり推進協議会 議事録

日時 令和6年2月8日 13時30分~15時

場所 保健所大会議室

1. <部長あいさつ>

今回、学識経験者の先生は、大阪からのリモート参加になります。健康づくり推進協議会の場ではありますが、現在、能登半島地震に関する被災地支援に取り組んでいることにも触れたい。「広報えどがわ(2/1号)」は防災特集号となっている。「日頃から十分な備えを」「本区の震災対策」「被災地への支援」とあるが、特に「被災地への支援」については、4つ取り組んでいる。経済的支援として、義援金1200万円を超える金額を今週石川県に送金した。人的支援については、罹災証明書に長けた職員を今月下旬、輪島市に派遣予定。支援が長引いた場合は、医療専門職の保健師を筆頭に現地に入る準備をしている。物資支援については、要請を受け、七尾市、志賀町に水等の物資を送った。また、同号の別の紙面に健康部に関する「令和6年度江戸川区食品衛生監視指導計画(案)」、「江戸川区国民健康保険第3期データヘルス計画(案)、第4期特定健康診査等実施計画(案)」、「(仮称)江戸川区感染症予防計画」への意見を募っている。「毎日ががん予防」のコラムを令和5年度よりシリーズで掲載。T大学の先生方に依頼し、監修は学識経験者の先生が行っている。引き続き、区民の健康づくりに取り組んでいく。いろんな角度からご指導、ご助言をいただきたい。

2. 委員紹介

3. 議事

(1) 健康日本21(第3次)の概要について

令和5年度地域・職域連携推進関係者会議資料の抜粋にて説明。

第3次は健康増進法に基づいている。その中に基本方針が定められていて、都道府県は健康増進計画を策定する義務があり、特別区を含む市町村が健康増進計画を策定することが努力義務として明記されている。キーワードは「誰一人取り残さない健康づくり」「より実効性をもつ取組の推進」、ビジョンは「全ての国民が健やかで心豊かに生活できる持続可能な社会の実現」、SDGsとの関連も非常に深い。基本的な方向として、「健康寿命の延伸と健康格差の縮小」で、「誰一人取り残さない健康づくり」「より実効性をもつ取組の推進」それぞれいくつかのアプローチが挙げられており、両輪から支えるようになっている。その中で、新たな視点として、「女性の健康」について明記され、健康に関心の薄い者に対するアプローチ「自然に健康になれる環境づくり」、多様な主体で立体的に取り組んでいく、アクションプランを提示、ICT等活用して健康情報を見える化していくことが大きな新規視点。主な指標として、「睡眠時間」「COPDの死亡率の減少」「健康経営」「骨粗鬆症検診受診率の向上」が挙げられている。もう一つ大事なのが、地域・職域連携の推進で、「地域保健」「職域保健」

「医療保険制度」がいかに連携して進めていくかを柱として掲げている。連携する場として、「協議会の開催」（レベル1）、情報や課題・データ分析結果の共有し、課題を明確化し、アプローチも一体的に行う（レベル2）。必要な予算等を確保し、自立的かつ継続的に実施する（レベル3）。第3期データヘルス計画とは、PDCA サイクルの実施し、「健康寿命の延伸」「医療費適正化」を同時に図る。KDB システムから指標を算出し、目標値を設定する。今後、区の中でどのようなロジックで健康づくりに関わる指標を作っていくかが肝要な議論の中心となっていく。

（2）みんなのえどがわ健康いきいきプラン（江戸川区健康増進計画 2023-2030）

- 健康日本 21（第3次）を含めながら検討してきた。
- 平均寿命は国と比べて、男性1歳、女性0.7歳差がある。（令和2年）
- 死亡原因となる様々な疾患で、国より死亡率が高い。
- 生活習慣病に結び付く生活習慣（国保健診結果より）、女性の喫煙率、食事習慣の問題、多量の飲酒が目立つ。
- 少子高齢化が進んでおり、令和2年には高齢化率が21.3%に達している。年少人口も減少が続いている。
- 女性の合計特殊出生率は1.15（令和4年）、人口置換水準2.1を下回っている。これには未婚化・晩婚化、昨今のライフスタイルが影響していると考えられる。
- 基本理念は、「誰もが健康を心がけ、いきいきと暮らしている」＋「更なる健康寿命の延伸を図る」
- 3領域、11分野に整理。数値目標を持つことで、より具体的に現状を捉えながら、目標の達成を目指す。
- がん予防・がん対策に重点的に取り組む。
- 計画の推進主体は、「区民」「医療関係機関」「事業者保険者」「区」
- 「区民」は、健康づくりに主体的に取り組み、子どもの頃から生活習慣づくり、地域の活動に積極的に参加することが重要。
- 「医療関係機関」は、適切な健診（検診）、指導助言、様々な場面で区民に寄り添う。
- 「事業者保険者」は、従業員等の健康づくりを支援し、事業者の生産性を高める。また、健康経営の推進、提供するサービス（介護、食品、スポーツクラブ等）を通して区民の健康を支えていく。
- 「区（行政）」は、関係機関等との連携を深め、健康増進計画の評価（それぞれの指標の状況を把握）し、実効性を高める。
- 少子化対策の独自事業として、「えどがわ50の子育てプラン」に取り組んでおり、その中の一つ「プレコンセプションケア」の相談事業を開始。
- 身体活動・運動不足は、死亡要因として、喫煙、高血圧に次ぐ3番目の危険因子。国の大

規模な研究によると、歩道の多い地域では認知症のリスクが低い、地域の樹木が多い地域では、うつ発症リスクが低いといったエビデンスがある。

- 健康づくりを推進したい区（行政）と健康経営を改善したい事業者と連携して取り組む。昨年 11 月に「産業ときめきフェア」内で講演会を行い、「必要性を感じた」という意見がある一方、「実際には取り組みが難しい」という声も聞かれた。今後も産業部局と健康部連携を強化していきたい。
- ICT 活用して、個人の健康づくりの動機付け、関心を高める。
- 参考資料 1：ロジックツリー
計画指標 79 を階層化したもの。最終目標「健康寿命」「(区民の)健康観」の改善を目指す。
- 参考資料 2：イメージとして捉えてほしい。
今後は目標設定した指標をきちんと把握しながら進めていき、業務の改善を図る。

(3) 健康づくりの取り組みについて（各団体から）

委員（医師会）

区と協力しながら、がん検診を含めた検診受診率の向上を目指す。

例として、がん検診リピーターに対して、スマホを活用した勧奨する等。

委員（医師会）

子どもの健康をどのように維持していくか？

毎年健診を行っているが、一貫性がないと感じている。データを取っているが、フォローがない。子どもは 2、3 歳から肥満が始まっている。大人になってからの生活習慣病ではない。太り始めが声掛けの時期。行政が関わる期間（保育園～大人）は行政が把握してもよいのでは？ その方が効率がよい。

がん教育はとても良い。病気にならない教育（食事・運動の重要性）を早い段階から行う。

委員（歯科医師会）

区の委託事業として、様々な検診（年齢別・妊産婦・口腔がん等）を行っている。

口腔がん検診の受診率 0.5%、その他の検診受診率 5～10%と低い受診率を何とかしたい。今年度は「在宅（寝たきり）」の人への訪問に取り組んでいく。

委員（学校歯科医会）

昨年度まで健康教育として、小学校 3 年生（虫歯予防）と中学校 1 年生（歯肉炎予防）に実施。また、フッ化物洗口がスタート。健康日本 21（三次）の考え方より、全小中学生にフッ化物洗口を行うことで、虫歯のないお口になっていくことは可能。虫歯の目標値は減少

してくると思う。

委員（薬剤師会）

薬不足の現状がある。医師の処方箋どおりに処方しているが、慢性病疾患の患者が多く、高齢化（居宅診療）が進んでいる。高齢患者の服薬忘れ等、薬剤のムダが多く、服薬指導が増えた。また、オーバードーズも要因。地域連携も行っており、気軽に相談してもらい、日常に変化があれば、どこの病院につなげるかといった相談も受けている。

視力が悪いという結果を受け、眼科医と協力し、区立小中学校、都立高に対して環境の検査を実施。家庭の中で、日常生活の指導も行っている。

委員（薬剤師会（学校保健））

区立幼稚園、小中学校、都立高に対して、学校環境衛生の検査を毎月実施。

タブレット使用時の教室照度が問題あり。また、養護教諭始めとする先生方の心配する声とし、オーバードーズがある。薬物乱用防止教室等の講師派遣を行っている。最近では、子どもたちに対してだけではなく、先生方、PTA に向けての要望も増えている。

委員（ファミリーヘルス）

地域の子どもから大人（熟年者）まで全体的に把握し、各地域（8 か所）で健康講座を行っている。中間層（働き盛りの年代）の人に関心を持ってもらい、悩みごとなどを投げかけてもらえるといいと思う。

委員（食品衛生協会）

小岩健康サポートセンターにて、健康教室（生活習慣病とボディケアについて）を開催。講師を招き、軽いストレッチや河川敷をウォーキングしている。

大腸がん検査キットの配布。参加者が少ないのが課題。

委員（労働基準監督署）

職域の問題として、年 1 回の健康診断を実施するよう指導。従業員 50 人以上の企業は問題ないが、50 人未満の小規模企業には法律遵守の取り組みを行っている。

健診結果に基づき、医師の意見聴取が義務化され、違反率が高かったが、徐々に改善。

労災は精神疾患が多い。ソフト面の改善として、50 名以上の企業に関しては、ストレスチェックを義務化。報告義務があるが、違反率は高い。小規模企業にもストレスチェックを浸透させていく取り組みを行う。

委員（労働基準協会）

区内事業者协会会员（約 300 社）になってもらい、協会内に「江戸川健康づくり研究会」と

いう専門部会を設けている。活動は監督署が主催する「全国労働衛生週間」（毎年 10 月）活動の一環として、説明会を実施。そこで行う講演会の企画を行っている。

「睡眠を妨げる原因」1 位が「仕事」ということで、昨年は区と連携して、仕事と睡眠の関係について、講演を実施した。

この研究部会は、7 社の幹事と区から選出された数名で構成されており、区との連携は欠かせない。増進計画の内容等を考慮しながら、取り組む内容を検討していきたい。

委員（医師会）

先日、自殺対策委員会に出席。10～20 代の自殺原因がオーバードーズ。

プレコンセプションケアに、オーバードーズへの対応も加えて考えていかなければならない。労働者の自殺は、仕事との兼ね合いとの印象を受けた。

（４）国民健康保険第 3 期データヘルス計画・第 4 期特定健康診査等実施計画について

資料 3 に基づいて説明。

- 事前にいただいた意見を基に修正を行い、パブリックコメントを実施（3/1 まで）。
- 65～74 歳のメタボリックシンドローム該当者が多い。
- 心疾患及び脳血管疾患が死因の上位。
- 糖尿病悪化による人工透析患者の割合が増加傾向。
- がん検診受診率が低い。
- これらの課題に向けて、次年度以降の事業をより効果的・効率的に実施するための計画。
- 「健康寿命の延伸」「医療費の適正化」の目的達成のために、「生活習慣病の発症者の抑制」「生活習慣病の重症化の抑制」「医療費の抑制」の目標を設定して、各保健事業を推進していく。
- 計画の目標と指標については、資料参照。

（５）令和 6 年度新規・拡充の健康増進事業について

資料 4 に基づいて説明。

- 江戸川区家庭料理検定
食事の基本となる知識を磨く手段として、検定を活用してもらう。
- 歯科の強化を図る。（障害者の口腔ケア体制事業、誰もがいつでも歯科受診・相談できる環境づくり、フッ化物洗口支援事業、歯科保健活動推進事業）
- 区立小・中学校歯科保健教育の充実（歯ブラシの配布）
歯科医師会より年 1 本、加えて年 11 本を配布。

○区立小・中学校歯科指導事業（フッ化物洗口）

令和 5 年度実施。令和 6 年度は実施校を増やす。

○区立小学生・中学生の生活習慣改善（睡眠）

子ども睡眠健診の継続、養護教諭等への睡眠に関する講習会を実施する。

○睡眠対策推進事業

区民への普及啓発として、令和 4 年度快適睡眠フェアを開催。今年度も開催予定。

今年度は快眠健診を実施。次年度以降、働く世代の睡眠対策として、職域と連携して企業向けの講演会や睡眠対策のニーズ調査を実施する。

質疑

委員（医師会）

○参考資料 2 より、4 社会参加・地域のつながりで、評価が低い。これに対して、考えていかなければならない。

○資料 3 裏面 特定健診受診率、特定保健指導実施率について、R 8 年度、11 年度の目標値があるが、%数値の根拠は？

⇒R 11 年度の国の目標が 60%なので、そこに向けて（年度）割り返して算出している。

（6）講評 学識経験者

他自治体も検診受診率が低下している。

目標設定をどのように解釈または作ったのか、議論して推進していくことが協議会の意義。ロジックモデルや指標については、社会情勢の変化、医師の働き方改革等、健康づくりという意味で、町全体としてどうしていくかという話と医療体制の影響をみながら、それぞれの目標や数字で見た実態（何が起きているのか？）を紐解く。

意見を聞きながら、現場感を持った数字と対応を課題として、共通認識を持っていく。

地域保健課長

最後に閉会の挨拶を保健所長よりさせていただきます。

保健所長

本日はお忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。私事ですが、小児科医を 20 年ほどやっていて、病気で亡くなっていく子供たちを目の当たりにしてきた。いろんな指標やツールがあるので、それらを活用して健康を維持してほしい。江戸川区は喫煙率

が高く、飲酒する人も高い。また、妊娠中の女性の喫煙率が高く、地域性はあるとは思いますが、8020 については、50%以上の方が 20 本以上の歯があり、健康に対する意識は高く持っているとも感じる。薬物中毒については、シンナー ⇒ 違法ドラッグ ⇒ 市販薬のオーバードーズと変化している。いろんな世代情報を取り入れて、健康づくりを推進していく。各分野の委員の皆様がいろんな活動をしていただいているおかげで、江戸川区の健康づくりも推進していくと思っていますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

これにて本日の健康づくり推進協議会を閉会します。